

I 事業の概要

通常評価

I-1 事業の概要

事務事業名	こどもエコライフチャレンジ推進事業 (地球温暖化対策家庭部門)	所管局部課等	環境政策局地球温暖化対策室
ホームページアドレス	http://www.city.kyoto.lg.jp/kankyo/soshiki/5-7-0-0-0.html	(連絡先)	2 2 2 - 4 5 5 5
		(評価票作成者)	「DO YOU KYOTO?」プロジェクト推進担当課長 上田 誠

22決算額 (千円)	23予算額 (千円)	今後の方向性	24予算額 (千円)	目標達成度評価
18,401	21,247	充実	20,356	指標: こどもエコライフチャレンジ実施率
業務運営方法	☐ 直営 ☐ 部分委託 ☐ 部分補助等 ☒ 全部委託 ☐ 全部補助等	委託(補助)先の名称、委託(補助)の内容 (委託先) 特定非営利活動法人気候ネットワーク (委託内容) こどもエコライフチャレンジ推進事業の運営, 「子ども版環境家計簿」の回収・集計・分析・評価		かなり悪い 悪い 普通 良い かなり 0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% 110% 120% H20年度 H21年度 H22年度
実施根拠 (法令, 条例, 規則, 要綱等)	京都市地球温暖化対策計画 (2011-2020)			事務事業の 性格 ☐ 義務的事業 ☒ 任意的事業
開始時期	平成 17 年度	終了(予定)時期	平成 年度	類型 1 1 その他
				会計区分 ☒ 一般会計 ☐ 特別会計

事業概要	対 象	(誰を, 何を) 小学校高学年及びその家族
	活 動 容	(どのような手段で) 将来を担う子ども達が, 家族や友達, 市民ボランティア等とともに, 地球温暖化問題について自ら考え, 体験することにより理解を深めるとともに, 「環境に配慮した生活 (エコライフ)」の実践方法や続けるコツを学習する。夏または冬休み期間中には, 子ども版環境家計簿である「こどもエコライフチャレンジ」を使って, 各家庭で省エネ・省資源の取組を進める。
	目 的	(どのような状態にしたいのか) 授業での学習と休み期間中の実践を通じて, 子どもの視点からライフスタイルを見直し, 省資源・省エネルギーをはじめとする「環境に配慮した生活 (エコライフ)」を家庭で定着させることにより, 家庭部門における温室効果ガス排出量の削減を図る。

I-2 投入量

年間経費等推移 (千円)	No.	区分	H20年度決算	H21年度決算	H22年度決算	H23年度予算	H24年度予算
	①	事業費 (千円)			18,401	21,247	20,356
		需用費			282	637	600
		通信運搬費			113	370	413
	①'	委託料 企画運営費等			18,006	20,240	19,343
	②	委託料が事業費に占める割合 (①' ÷ ①) (%)			97. 9%	95. 3%	95. 0%
	③	人件費 (24年度は見込) (千円)			13,996	5,893	5,073
		職員(課長級) (人)			0.15	0.05	0.05
		職員(課長補佐級、係長級) (人)			0.40	0.20	0.20
		職員(係員) (人)			1.00	0.40	0.30
		嘱託職員等人件費 (千円)					
	④	年間経費 (①+③) (千円)			32,397	27,140	25,429
	⑤	特定財源 (市税等の一般財源以外) (千円)			13,396	21,247	20,356
		国庫・府支出金 (千円)					
		受益者負担分(使用料, 手数料等) (千円)					
		その他(基金繰入金) (千円)			13,396	21,247	20,356
	⑥	京都市年間負担経費 (④-⑤) (千円)			19,001	5,893	5,073
	⑦	受益者負担率 (受益者負担分÷④) (%)			0. 0%	0. 0%	0. 0%

Ⅱ 評価結果

事業名

こどもエコライフチャレンジ推進事業
(地球温暖化対策家庭部門)

Ⅱ-2 業績評価 (Ⅱ-1 市民と行政の役割分担評価は「通常評価」のため省略)

A 目標達成度	指標名	区分	単位	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度
指標1	こどもエコライフチャレンジ実施率	目標値 …①	%				100	100
		実績値 …②	%			100		
		目標達成度 (②÷①)	%			#DIV/0!		
	指標の種類	増加することが良いとされる指標		評価			#DIV/0!	
指標2		目標値 …①						
		実績値 …②						
		目標達成度 (②÷①)	%					
	指標の種類			評価				
			総合評価					
指標の選択理由				目標値設定の考え方				
指標1	家庭部門における温室効果ガス排出量の削減を図り、各家庭で取り組む省エネ・省資源の実施状況を示す指標であるため。			環境モデル都市行動計画に基づき、平成23年度以降も引き続き、全市立小学校で実施することを目標としている。				
指標変更の有無	☒ 有 ☐ 無 変更予定の指標名			適用年度	平成23年度から		単位	%
指標2								
指標変更の有無	☐ 有 ☒ 無 指標名			適用年度			単位	
分析	<実績値の変動理由等>							
B 効率性	No.	区分			単位	H20年度	H21年度	H22年度
	①	こどもエコライフチャレンジ実施率			%			100
	②	年間経費 (事業費及び人件費の合計額)			千円			32,397
	③	単位当たり経費 (②÷①×1,000円)			円/単位			323,970
	④	単位当たり経費変動率						
				評価				
分析	<コスト変動の理由等> 平成21年度と比べ、平成22年度の活動実績・経費共に増加したため効率性は変わらなかった。 こどもエコライフチャレンジ推進事業実施校数：平成21年度101校、平成22年度177校 (全市立小学校)							
C 市民参加度	企画段階	☐ 高 ☒ 中 ☐ 低 ☐ 無			<現状分析、今後の方針等> 本事業は、地球温暖化対策への高い取組意識が将来の世代に受け継がれていくという点において、各家庭における温室効果ガス排出量を削減する取組としては、非常に有効な事業であり、今後も引き続き全市立小学校での実施を目指していく。			
	実施段階	☐ 高 ☒ 中 ☐ 低 ☐ 無						
	評価段階	☐ 高 ☐ 中 ☐ 低 ☒ 無						
D 市民満足度	<調査の有無>			<調査結果、現状分析等>				
	☐ 有 ☒ 無 ☐ 該当しない							
	<調査方法>	<調査時期>						
E 環境保全及び環境負荷軽減の要素	<現状分析、今後の方針等>			民生・家庭部門における二酸化炭素排出量は基準年 (H2年) 以降、増加傾向にあり、削減することが急務であるため、今後も事業の更なる推進を図っていく。				
	☒ 環境 ☐ 関連 ☐ 一般							

平成23年度の実施状況

平成22年度に引き続き全市立小学校173校で実施。(小学校の統合により、前年度比4校減)

市会・監査・外部機関等からの指摘

平成23年度事務事業評価委員会からの提案については検討の上、来年度の評価時に対応を行う。

Ⅲ 今後の方向性

(今後の方向性の理由及び具体的な内容)

充実

全市立小学校で事業を継続する中で、プログラム内容等の課題を整理し、実施体制の再構築を検討する。また、次年度以降のエコライフの定着を図るため、前年度取り組んだ児童を対象として、復習及び発展プログラムを実施する。さらに、一層の省エネの取組の普及促進を図るため、本事業の対象世帯に対する一般用環境家計簿の取組を働きかける仕組みづくりを検討する。